

スタートアップマニュアル（導入準備編）

はじめに

本書は、本サービスの申し込み完了後から本サービスが提供する「API」および「チャット用Webアプリケーション(以降、チャットアプリと記載)」を利用するための導入準備について説明します。

本サービスのAPIを用いることで既存システムへの生成AI機能の組み込みやアプリケーションの開発を行うことができます。また、チャットアプリを用いることでLLMとの簡単なチャットを試すことができます。チャットアプリを利用するためにはユーザ登録が必要になります。

申し込み完了からAPI利用・チャットアプリまでの流れは以下のとおりです。

API開発の流れ

1. システム管理者の本人確認・パスワード設定（申し込み後初回のみ）
2. 管理ポータルへのログイン
3. API-Keyの確認
4. クライアントアプリケーションの実装

チャットアプリ利用の流れ

1. システム管理者の本人確認・パスワード設定（申し込み後初回のみ）
2. 管理ポータルへのログイン
3. ユーザの登録確認
4. 登録ユーザの本人確認・パスワード設定（登録時初回のみ）
5. チャット画面の利用

導入手順

以降では、それぞれの流れについて説明します。

- (API)と記載しているものはAPI開発時に参照してください。
- (アプリ)と記載しているものはチャットアプリ利用時に参照してください。
- (共通)と記載しているものはどちらの作業でも行う作業となります。

APIの詳細やチャットアプリの詳細については別紙で提供される各ガイドを参照ください

（共通・初回時のみ）システム管理者のサインアップ

サービスの申し込みが完了すると、契約者のメールアドレスをIDとしたアカウントが自動で作成されます。

契約者はチャットアプリまたは管理ポータルのログイン画面へアクセスし、サインアップを実施することで、チャットアプリと管理ポータルを利用することができます。



チャットアプリ ログイン画面

管理ポータルへの移動はチャットアプリのログイン画面右上に表示されているリンクから移動することができます。



(共通) 管理ポータルへのログイン

管理ポータルのログイン画面からログインを行います。登録済のメールアドレスと設定したパスワードを用いてログインを行います。

(API) API-Keyの確認

本サービスを呼び出すためには、API-Keyによる認証が必要です。API-Keyは管理ポータルから確認することができます。API-Keyの確認方法については「管理ポータル操作ガイド(基本操作編)」をご参照ください。

⚠️ API-Keyは契約毎に割り当てられる重要な情報です。公開範囲は必要最低限となるよう十分に注意してください。
なお、API-Keyは管理ポータルから更新できます。詳細は「管理ポータル操作ガイド」を確認してください。

(API) クライアントアプリケーションの実装

本サービスは、OpenAI APIに準拠したAPIと本サービス独自のAPIを提供しています。

OpenAI APIを利用した開発では、OpenAIのライブラリやLangChainを利用したソフトウェアの開発を行うことができます。

OpenAI APIの利用については「OpenAI API利用チュートリアル」をご参照ください

本サービス独自のAPIは、履歴付きの対話機能やRetrieval-Augmented Generation(RAG)を用いた対話機能を提供しています。これらのAPIではOpenAI APIより高度な対話機能が利用できます。なお、RAGを用いた対話には、オプションメニューの申し込みが必要です。

各APIの利用については「履歴付き対話チュートリアル」「テンプレート対話チュートリアル」などご利用の内容に合わせたチュートリアルをご参照ください

(アプリ) ユーザの登録

チャットアプリは管理ポータルに登録され、サインアップを実施したユーザがログインすることで利用できます。ユーザの登録は管理ポータルから実施できます。

システム管理者がユーザ登録を行った後、登録したユーザにチャットアプリのリンクを送付しサインアップの実施をお願いしてください。

Generative AI チャット

ログイン

チャットアプリ ログイン前トップページ

チャットアプリ ログイン画面

ユーザ登録とサインアップが完了すると、チャットアプリのログイン画面から登録したメールアドレスとパスワードを用いてログインが可能となり、本サービスの対話機能をお試し利用することができます。

チャット画面の利用については「チャット画面利用ガイド」をご参照ください。